

小坂文部科学大臣と米航空宇宙局（NASA）グリフィン長官 との会談結果について

平成 18 年 5 月 10 日
研究開発局参事官付
宇宙利用推進室

平成 18 年 5 月 3 日～7 日、小坂文部科学大臣が、米国（ワシントン DC）を往訪し、米航空宇宙局（NASA）グリフィン長官との会談を行った。

1. 日時 平成 18 年 5 月 5 日（金）（米国時間）
2. 場所 NASA 本部（グリフィン長官室）
3. 出席者

日本側：小坂文部科学大臣
片岡文部科学大臣秘書官
小田科学技術・学術政策局長
井田大臣官房審議官（研究開発局担当）
町田科学技術・学術政策局国際交流官
渡辺研究開発局参事官付宇宙国際協力企画官
西川研究開発局宇宙利用推進室室長補佐
生川在米国日本国大使館参事官
間宮 JAXA 副理事長 ほか

NASA 側：グリフィン長官

ゲースティンマイヤ宇宙運用局長
クリーブ科学局長
オブライエン国際局長
クーク探査システム局次長

4. 概要

- ISS 計画については、着実な推進と、日本実験棟「きぼう」の早期、かつ確実な打上げを要請し、確実な打上げの実現について合意。
- 「きぼう」の組立において、日本人宇宙飛行士のスペースシャトル搭乗を要請し、「きぼう」の 3 回打上げのうち、1 便目に土井宇宙飛行士が搭乗し、山崎宇宙飛行士が同ミッションを支援するクルーサポートアストロノート（搭乗者支援宇宙飛行士）に決定。
- 宇宙探査について、各国とも意見交換を行いつつ、今後の米国との協力の可能性を探る考えであることを伝え、日本が宇宙探査における最も価値のあるパートナー（valued partner）の一つであり、ISS 計画の先を考えた時に、月や火星探査においても日本と協力していきたいとの意向¹を確認。
- 月探査について、各国とのパートナーシップで計画を進めるため、日・米・欧州・中・印の協力の可能性を探るべく、今後意見交換を行っていくことで合意。

¹ 誰の「意向」なのか、誰が「確認」したのか分からない文章。「合意」とか「決定」なら主語を明示しなくても良いが、第 3 項目だけはどうしても微妙。

(参考) プレスリリース

ことです。なお、クルーサポートアストロノートに選定されるのは、日本人宇宙飛行士として初めてです。

日本実験棟「きぼう」の打上げ時にスペースシャトルに 搭乗する日本人宇宙飛行士の決定について

平成 18 年 5 月 6 日

文部科学省

宇宙航空研究開発機構

国際宇宙ステーション (ISS) 計画において、我が国が開発している日本実験棟「きぼう」(JEM) は、スペースシャトルで 3 回に分けて打ち上げられることとなっておりますが、米国時間 5 月 5 日 (金) に、小坂文部科学大臣と米航空宇宙局 (NASA) グリフィン長官との会談が米国ワシントン D.C.で行われ、「きぼう」の打上げのうち、1 便目 (船内保管室打上げ) のスペースシャトルに搭乗し、ISS での組立作業を行う日本人宇宙飛行士が決定しましたのでお知らせいたします。

1. 決定した日本人宇宙飛行士

土井 隆雄(どい たかお) 宇宙飛行士

※山崎 直子(やまざき なおこ) 宇宙飛行士も、同フライトのクルーサポートアストロノート (搭乗者支援宇宙飛行士) に決定しました。任務としては、本ミッションを支援する

2. 打上げ時期

1 便目 (船内保管室) 2007 年末の見通し

※参考

2 便目 (船内実験室、ロボットアーム) 2008 年初めの見通し

3 便目 (船外実験プラットフォーム、船外パレット) 2008 年末の見通し

3. 滞在期間

約 2 週間程度 (スペースシャトルに搭乗し、同じスペースシャトルで帰還する)

4. 活動内容

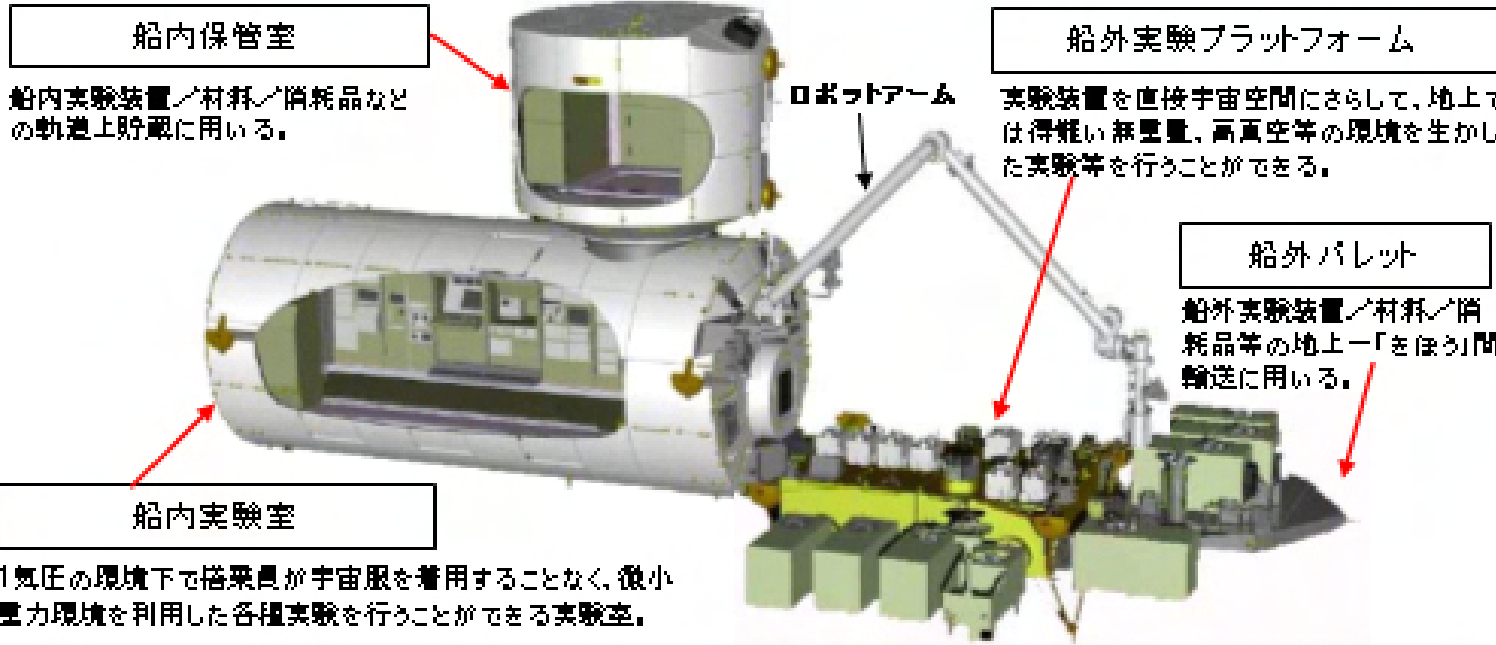
「きぼう」船内保管室の ISS への組立作業等

5. 今後の予定

スペースシャトル/ISS 搭乗に必要な一般的な訓練や、「きぼう」の組立てに必要な訓練を行う予定。


日本実験棟「きぼう」 (JEM) について

目的: 国際宇宙ステーションにドッキング予定の日本初の有人実験施設で、2つの実験スペースでさまざまな実験や研究、技術開発を行う。

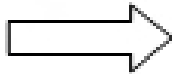


「きぼう」の打上げ順序


1便目
2007年末打上げの見通し
(スペースシャトルのISSへの飛行のうち8番目)



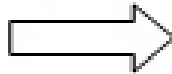
船内保管室




2便目
2008年初め打上げの見通し
(スペースシャトルのISSへの飛行のうち9番目)



船内実験室
ロボットアーム



3便目
2008年末打上げの見通し
(スペースシャトルのISSへの飛行のうち12番目)



船外実験プラットフォーム
船外パレット

土井宇宙飛行士と山崎宇宙飛行士の略歴



土井 隆雄 (どい たかお)
JAXA宇宙飛行士

1954年 東京都生まれ
1978年 東京大学工学部航空学科卒業
1983年 同大学大学院博士課程修了(宇宙工学)
1985年 文部省(現文部科学省)宇宙科学研究所研究生修了
1985年8月 第1次材料実験「ふわりと92」のPS候補者に選定
1990年4月 「ふわりと92」のバックアップPSに任命
1992年9月 「ふわりと92」のバックアップPSとして地上支援を行う
1995年3月 MS候補者訓練開始
1996年5月 MSIに認定
1996年11月 STS-87のMSIに任命
1997年11月19日～12月5日
スペースシャトル「コロンビア号」によるSTS-87ミッションに搭乗し、
国際宇宙ステーション建設に必要な宇宙クレーンの機能・性能及
び操作性の確認を行い、さらに当初予定されていなかったスバルタ
ン衛星(太陽コロナ)の回収作業など、日本人宇宙飛行士として初
めて船外活動を行った。



山崎 直子 (やまざき なおこ)
JAXA宇宙飛行士

1970年 千葉県松戸市生まれ
1993年 東京大学工学部航空学科卒業
1996年 同大学航空宇宙工学専攻修士課程修了
1996年4月 宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構)入社
1996年4月～ JEMプロジェクトチーム
1998年6月～ セントリフュージプロジェクトチーム
1999年2月 宇宙飛行士候補者に選定
2004年5月 ソユーズ宇宙船フライトエンジニア資格取得
2004年6月 MS候補者訓練開始
2006年2月 MSIに認定